

ばかな汽車

豊島与志雄

青空文庫

——長いあいだ汽車の機関手きかんしゅをしていた人が、次のつぎような話をきかせました。——

*

汽車の機関手きかんしゅをしていまして、面白おもしろいことや、あぶないことや、つらいことや、それはずいぶんいろんなことがあります、そのうちでかわった話はなしというのは——

そうですね……もうずっと昔むかしのことです。汽車をうんでんして、ある山奥おくを、夜中よなかに走はしっていました。機関車きかんしゃの前の方こまどの小窓か

らのぞきますと、右手はふかくしげった山のふもとで、左手には小さな谷川がながれていまして、二本のレールがあおじろくまっすぐにつづいていきます。その上を、汽車は速力をまして走っています。後の方に つづいてる車では、もう乗つてるお客たちもたいていうとうとと眠つてゐる頃で、あたりはしいんとした山の中の夜で、ただ私たちだけが起きていて、かまに石炭の火をたき、レールの上を見はりながら、汽車をごうごうと走らしています。もしなにかまちがいでもあろうものなら、何百人もの乗客たちの命にかかわるんです。

ところが、機関車の小窓から前の方を注意していた私は、思わずアツと声をたてました……。線路わきにぽつりぽつりつい

てる電燈でんとうの光が、とおく闇やみにまぎれて、レールもみわけのつか
 ないその先さきの方に、大きな眼玉めだまのようなヘッドライトの光をかか
 やかし、煙突えんとつから煙けむりをはいて、まっくらな大きなものが、ひじ
 ような勢いきおいで走つてきます。汽車です。汽車が向うむこからくるんです。
 そのへんは、単線たんせんで、一筋ひとすじの線路せんろきりありませんでした。
 両方りょうほうから汽車が走つてくれば、ましようめんから衝突しょうとつす
 るばかりです。それをさけるために、タブレットの仕方しかたで、停ていし
 車場やばと停車場ていしやばの間あいだには一つの汽車しか通とおさないようにしてあ
 ります。それがどうしたまちがいか、たしかに向うむこから汽車が走
 つてきます。

両方りょうほうともたいへん早く走つていますので、みるみるうちに

近よつてきました。もし衝突しょうとつでもすれば、どんなことになるかわかりません。いくたりの人が死ぬかわかりません。私はとつさに、汽笛きてきをならし、制動機せいどうきに手をかけて、汽車を止めようとしました。火夫かふたちもみな立上たちあがりました。向うの汽車でも、汽笛きてきをならしています。

全速力ぜんそくりよくで走つてる汽車をとめるのは、よいなことではありません。あまり急きゆうにとめますと、脱線だっせんしてひっくりかえる心しん配んぱいがあります。両方りやうほうからぶつつからないうちにとめる、そのわずかなかねあいです。私たちはもう生きた心地こころちもしませんでした。

向うの汽車はすぐ近くになりました。まっくろなすがた、煙けむりを

はいてる煙突、ぎらぎら光ってるヘッドライト……車輪のひびきまで聞えてきます。ぶつかつたらさいごです。

そのうち、こちらの汽車はしだいにとまりかけて、一つ大きくゆれてまったく止つてしまいました。と同時に、向うの汽車もとまりました。危いところでした。両方十七、八メートルしかはなれていませんでした。私はほつとしました。

そのまま、しばらくにらみあいそのままでしたが、さて、線路が一筋なので、お互に通りぬけることができせん。どちらか後しざりをしなければなりません。

私の汽車から、火夫が一人おりていきました。見ると、向うの汽車からも火夫が一人おりてきます。両方からやっていきま

した。

ところが、私は息もとまるほどびつくりしました。今まで、すぐ向うに、十七、八メートルばかり先の方に、煙をはき光をだし、音までたてていた汽車が、姿もなにもなくなつて、こちらのヘツドライトの光にてらされた線路が、ただしらじらと遠くまでうちひらけてるじやありませんか。そしてなおふしぎなことには、そのきえうせた汽車からおりてきた火夫だけが、こちらからいく火夫の方へ、同じような足どりで歩いてきます。

私はおりていこうとしました。がもうその時、両方の火夫は線路の上であつていました。立どまつて、何か話してるようでした。すると、こちらの火夫が、いきなり向うの男になぐりか

かりました。とたんに、向うむこの男の姿すがたがきえて、火夫かふは足もとに、なにかへんなものをおさえつけています。

私はいきなり、助手じよしゆやほかの火夫かふといっしよに、機関車きかんしゃからとびだして、かけつけていきました。みると、火夫かふは大きな獣けだものを力ちから一杯いっぱいにおさえつけています。それは、年とつた一ぴきの大きな狸たぬきでした。

それでやっとわけが分りました。その狸たぬきめ、汽車にばけて、こちらの汽車のとおりに進すすんできたところが、こちらがとまったので、向うむこでもとまって、それから火夫かふがおりて行くと、汽車の方かたを忘わすれてしまつて、火夫かふだけにばけて、つかまつてしまつたんです。私たちははじめ腹はらをたてましたが、次つぎにはおかしくなりまし

た。そして狸たぬきにいいきかしてやりました。

「ばかだな、お前は……。ばけるものにことをかいて、汽車にばけるとはなんとということだ。もし衝しょうとつ突つでもしたら、お前はこなみじんになってしまふぞ。これから、もつと気のきいたものに、危あぶなくない者にばけるようにしろよ」

そして、食たべ残のこしの牛肉のきれをやつて、はなしてやりました。狸たぬきは肉をもらつて、頭あたまをびよこびよこさげながら、藪やぶの中へはいつていきました。私わたしたちはその後うしろすがた姿すがたをみおかつて、大おほ笑わらいをしながら、後おくらした時間じかんをとりかえすために、汽車を全ぜん速そく力りよくで走はせました。

まったく、ばかな狸たぬきです。汽車にばけるなんて、よくそんな危あぶな

つかしいことができたものです。むてっぼうにも程ほどがありますよ。

青空文庫情報

底本：「天狗笑い」晶文社

1978（昭和53）年4月15日発行

入力：田中敬三

校正：川山隆

2006年12月31日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ばかな汽車

豊島与志雄

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>